

# 第5次グループ中期経営計画

## 変革への挑戦 × リージョナル経営の推進

日本パーカライジングは、2028年に創業100周年を迎えます。  
この100年で得た成果をその先の未来につなげるため、さらに大胆な変革に挑み、日本から世界に向けたリージョナル経営の推進で、新たな成長ステージを目指します。

### 1. 第4次グループ中期経営計画(2022年4月～2025年3月)の振り返り

第4次グループ中期経営計画では、Vision2030の実現に向けて、「成長戦略」「社会課題解決」「企業変革」の3つを柱に、6つのマテリアリティを掲げてその取り組みを推進しました。

数値目標では、円安による海外子会社の為替換算によるプラスの影響もあり、売上高は目標を達成しました。一方で、原材料・鋼材価格の高止まりやインフレによるコスト上昇の影響により、営業利益は目標を下回りました。経常利益は、受取配当金や持分法投資利益の増加により目標を達成しました。

経営基盤の強化に向けて、2024年7月にパーカー加工株式会社を完全子会社化しました。また、2025年4月に

は技術開発力の強化を目的として新たに総合技術研究所(Parker Innovation Center)を開所し、「先端技術研究部」「コア技術研究部」を新設するなど、研究開発体制を見直しました。さらには表面改質技術を活用した医療機器の開発・販売強化を目的として、2025年7月にライフサイエンス事業部の医療機器部を分社化し、Parker MedTech株式会社を新設しました。

グローバル競争が激化する中、次期中期経営計画では、既存事業の深耕に加えて、国内事業の収益力強化、海外事業の拡大、新規分野の開拓の3つに取り組む必要があると認識しています。

### 2. 第5次グループ中期経営計画(2025年4月～2028年3月)の基本方針と目標

第5次グループ中期経営計画では、「変革への挑戦」をスローガンに、事業ポートフォリオの拡大、新規事業の創出、グループ連携の強化、AIの活用やDXの推進による業務効率化などに取り組めます。

持続的な成長の実現に向けては、社会課題の解決を通じて、社会およびお客さまから信頼される企業であり続けることが重要です。その一環として、2025年4月に開所した総合技術研究所(Parker Innovation Center)を拠点に、脱炭素社会に貢献する表面改質技術の開発を、グループ一体となって推進します。また、外部の技術や知見を積極的に取り入れるオープンイノベーションを進めるとともに、M&Aや戦略的アライアンスの活用も視野に入れながら、技術力と事業競争力の強化を図ります。

さらに、2024年度より、国内事業との連携強化と海外事業の拡大を目的として、「リージョナル経営」体制を導入

しています。この体制では、事業活動地域を日本、東アジア(台湾、韓国)、中国、インド・ASEAN、欧米の5つに区分し、各地域に管掌役員を配置して、地域ニーズに応じたマーケティングや技術開発などを推進します。加えて、事業部門やグループ会社間の連携を強化し、日本の事業本部と各地域のグループ会社間だけでなく、グループ会社同士のコミュニケーションも活性化させることで、グループ全体の連携力を高め、顧客への総合的なソリューション提供力を強化します。

また、資本効率の向上と株主還元の強化にも継続的に取り組みます。安定的な配当に加え、自己株式の取得を機動的に実施するなど、柔軟な株主還元策を講じることで、ROE8%以上(長期的には10%以上)を目標に、持続的な成長と資本効率の両立を図り、企業価値の向上を目指します。

## 第5次グループ中期経営計画の基本方針

### 変革への挑戦 × リージョナル経営の推進



2028年に迎える創業100周年、そして、その先の未来に向けて、新たな成長ステージを目指します!

2028年 創業100周年



- ・1928年に、社員9名で事業を開始
- ・1965年に台湾に進出、積極的にグローバル展開を進め、現在では世界13カ国に拠点を設置
- ・グローバルニッチトップ企業100に選定(2017年)

### Vision2030実現に向けた種まきと刈り取り

#### 第4次グループ中計に引き続き、以下の施策をグループ全体で一丸となって推進

##### 脱炭素社会の実現に向けた取り組み

- ・脱炭素社会の実現に向け、環境分野における研究開発テーマの拡大
- ・導電性・絶縁性の付与、耐摩耗性・耐熱性の向上、低歪み熱処理など、EV化に対応した技術の高度化を進めるとともに、異種材料接合など、次世代自動車向け技術の開発にも注力
- ・摺動性や絶縁性の向上、CO<sub>2</sub>排出削減、省エネルギーに寄与する表面処理技術の開発
- ・SDGsの観点を踏まえ、循環型経済の実現に貢献するリデュース・リユース・リサイクル(3R)技術の開発
- ・異業種との連携による付加価値創出
- ・当社の密着性向上技術などをお客さまの原料に適用し、製品価値を高めることで、異業種との協業を積極的に展開

##### 新規分野の開拓と事業基盤の強化

- ・自動車・鉄鋼以外の分野への展開強化
- ・半導体、電子・電気、ライフサイエンス(医療機器、化粧品、衣食住など)などの新規分野への進出強化
- ・新規事業シーズの探索
- ・M&Aによる事業ポートフォリオの拡充



### 第5次グループ中期経営計画/連結数値目標

	2025/3実績		2028/3目標		増減	
	金額	売上比	金額	売上比	金額	比率
売上高	薬品	57,616	-	63,000	5,384	9.3%
	装置	24,206	-	23,000	-1,206	-5.0%
	加工	47,753	-	52,000	4,247	8.9%
	他・全社	2,704	-	3,000	296	10.9%
	合計	132,281	-	141,000	8,719	6.6%
営業利益	薬品	10,340	17.9%	11,000	660	6.4%
	装置	685	2.8%	1,000	315	46.0%
	加工	5,016	10.5%	7,000	1,984	39.6%
	他・全社	-1,045	-	-1,500	-455	-
	合計	14,998	11.3%	17,500	2,502	16.7%
経常利益	19,936	15.1%	21,100	15.0%	1,164	5.8%
ROE	6.9%	-	8%以上*	-	-	-

※ 長期的には10%以上